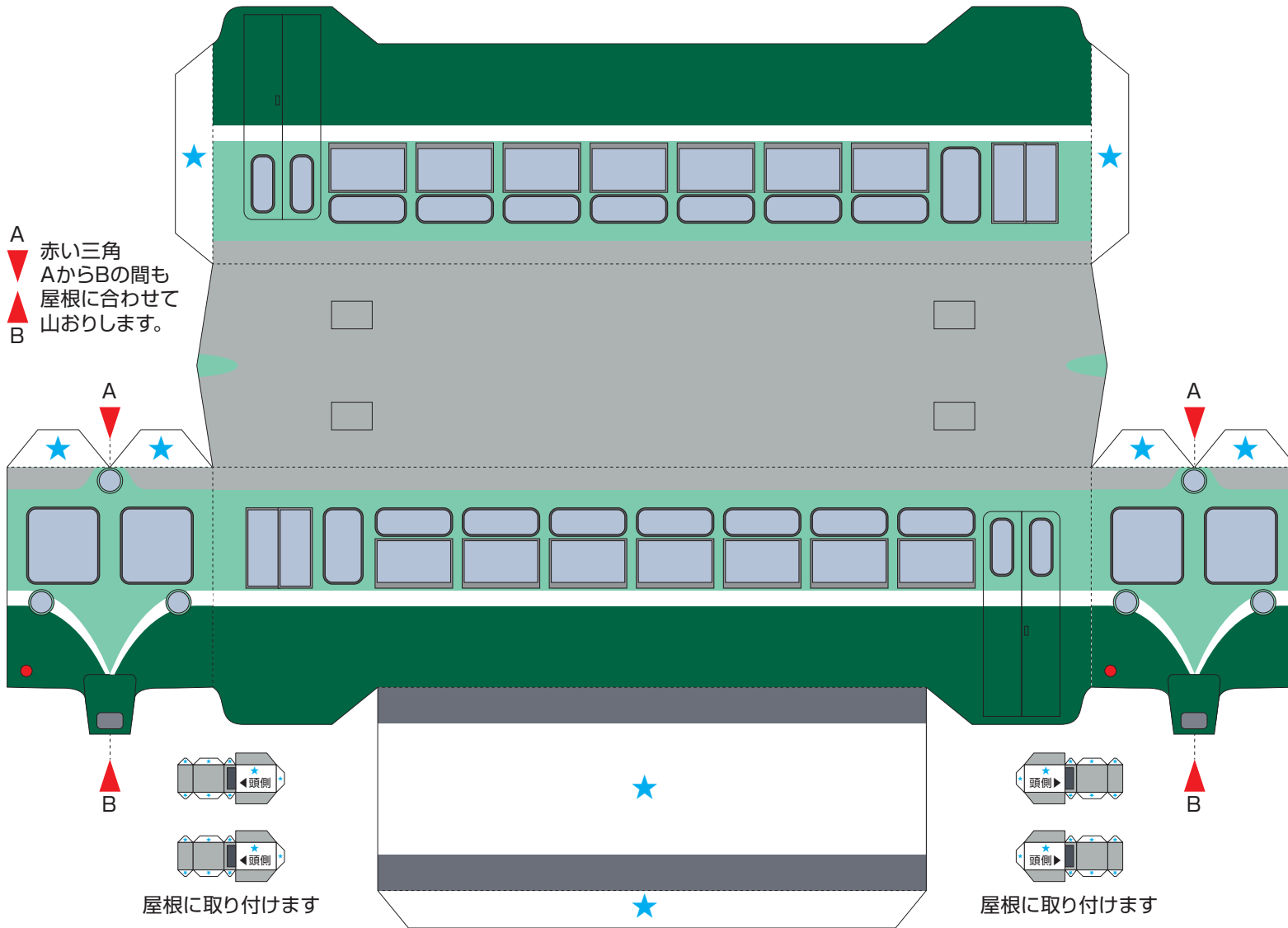


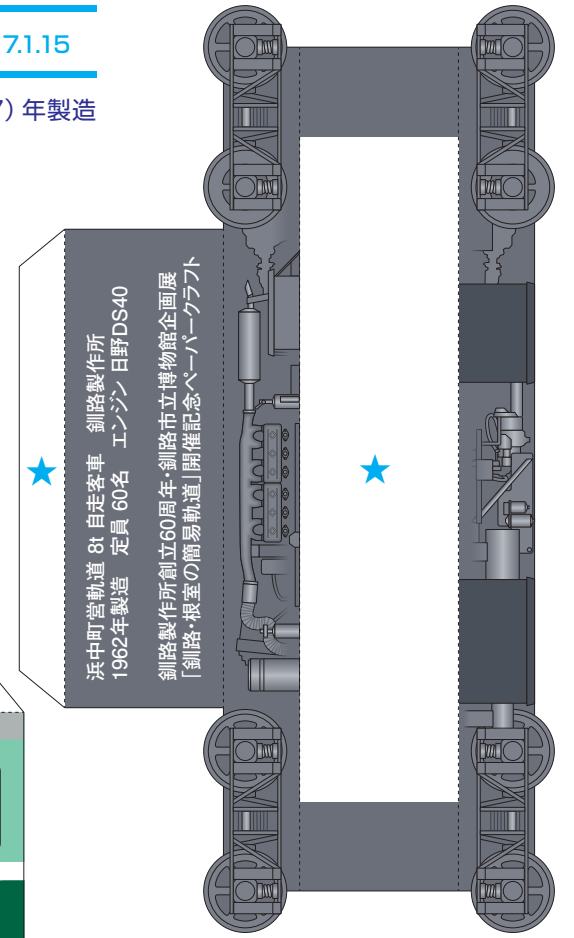
—— 切り取り 山おり -.-.-.- 谷おり ★ のりしろ 「浜中町営軌道」自走客車 釧路製作所・1962（昭和37）年製造



A
▲ 赤い三角
▼ AからBの間も
▲ 屋根に合わせて
▼ 山おります。

屋根に取り付けます

屋根に取り付けます



★
浜中町営軌道 8t 自走客車 エンジン 日野DS40
1962年製造 定員 60名
釧路製作所 釧路市立博物館企画展
「釧路・根室の簡易軌道」開催記念ペーパークラフト



開拓地は泥炭地も多く、春の融雪期には交通が極めて困難となります。そこで内務省北海道庁は道東・道北を中心に「殖民軌道」を計画、1925（大正14）年、厚床駅~中標津が開通、その後次々と敷設されました。

殖民軌道はレール幅が762mmと国鉄の1067mmに比べ狭く、また動力は馬匹とする簡易なものです。運行組合が設置され、入植者は料金を払い利用しました。また輸送量が大きい路線では内燃動力も導入されるようになります（北海道庁直営）。殖民軌道は国鉄線の駅を起点に、より内陸の開拓地へ路線は伸びていきます。

戦後は農林省所管となり「簡易軌道」と呼ばれるようになります。新設改良は国、維持補

修は北海道が受け持ち、実際の管理運営は町・村に委託されました。近代化も押し進められ、馬力から内燃動力化された簡易軌道として釧路・根室地域には鶴居、標茶、浜中、別海の各町・村営軌道がありました。このペーパークラフトは浜中町営軌道（茶内~西門朱別・上風蓮（開南）・別寒辺牛）で活躍した「自走客車」（国鉄・JRや私鉄というディーゼルカー）をモデルにしています。

人々だけでなく農作物、そして牛乳の輸送などに重要な役割を果たしましたが、整備されていく道路に役目を譲り、1972（昭和47）年の浜中町営軌道の廃止によって全て姿を消しました。



おかげさまで60周年

株式会社 釧路製作所

<http://www.kushiro-ses.co.jp>

北海道釧路市川北町9番19号 電話0154-22-7135